

令和6年度新潟県立阿賀黎明高等学校第2回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和6年10月15日（火） 10時～12時

2 会場

新潟県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール

3 参加者

委員7名

文部科学賞CSマイスター 出口寿久様（北海道科学大学教授）

県教育委員会2名

（オブザーバー参加）

- ・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者5名
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者1名
- ・阿賀黎明高等学校教職員5名

計21名

4 次第及び概要

（1）開会（遠藤会長）

（2）校長挨拶（斎藤校長）

（3）本校の状況説明

① 令和6年度のこれまでの状況及び生徒募集について（斎藤校長）

- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）についての再確認
- 学校や生徒の様子について（在籍状況、生徒指導、学校行事、進路状況）
- スクール・ポリシーについて（今年度の取組の進捗状況）
 - ・探究活動の充実
 - ・個別最適な学びの充実
 - ・阿賀津川中学校との連携型中高一貫教育の推進
- 生徒募集について
 - ・阿賀町及び隣接地域への説明
 - ・地域みらい留学
 - ・ボート部関係

② 授業における地域との連携について（加藤コーディネーター）

ア 総合的な探究の時間

【1年生】・阿賀町さいこうプロジェクト「福祉体験」の実施報告

【2年生】・阿賀町さいこうプロジェクトの「中間発表会」「プロジェクト実施」報告

イ 学校設定教科「地域学」

【2年生】・「まちでコミュデザ」(地域をフィールドとした活動の企画・実施)

【3年生】・「まちあそび図鑑」(町の資源を活用したまちあそびを企画・実施)

ウ 家庭科

【家庭基礎(1年生)】

・阿賀町の社会保障制度や高齢者福祉に関する課題を知る「福祉体験」

【フードデザイン(2年生)】

・地域の郷土料理や特産物を活かした献立考案、実習

【保育基礎(3年生)】

・阿賀町の子どもの福祉についての課題解決を体験活動で学ぶ「保育園訪問」

エ その他

【中高連携】

・地域学Aにおける中学校1年生と連携した授業の実施

・総合的な探究の時間における中学校2年生と連携した授業の実施

③ 阿賀黎明高校スタンダード策定状況(松永教諭)

○ 阿賀黎明高校UDLスタンダード(案)について

④ 質疑応答・意見交換

(猪俣副会長) 阿賀黎明高校の特色である授業の地域学の現状や成果・課題は?

(山口教諭) テーマに対して具体的にアイデアを企画実践できている点で成長を感じる。

(加藤コーディネーター) 課題としては、自分で決めるのが得意な生徒も苦手な生徒も参加しやすい授業にするためにどのような工夫・改善をすべきかだと考える。

(猪俣副会長) 自分でやりたいことを見つけていきいきと動いていける授業があるのは阿賀黎明高校の特色だと思うので、改善点があるとより議論しやすいと感じて質問をした。

(清田委員) 中高連携の中学生・高校生それぞれの成長は?

(国本委員) 中学生について、高校生と一緒に活動させてもらうことで自分たちで話し合いを進めていく姿や何かをつくりあげていく姿などが中学生の手本となっていると感じる。中学2年生が中高連携の2年目であり中学生もプロジェクトを行っている中で、受け身ではなく自分たちでつくりあげるという意識が芽生えているように見える。

(加藤コーディネーター) 中学2年と連携している高校2年の総合的な探究の時間では、互いにプロジェクトを実践している仲間として学び合う場があることが価値だと感じる。中学1年と高校2年の地域学では、思い通りにいかなかった体験を振り返って次にどう繋げるかという経験が社会に出てからも活かせる部分だと感じている。

(西田コーディネーター) 今年度地域学Aを受講している高校生は積極的な生徒が比較的多いので中学生との関わりがうまくいっている部分もあるのではないかなと思う。そのため、個人のそもそもの資質能力によらず高校1年時点の授業で積極性を高める機会をどう設計するかが重要ではないか。

(清田委員) ということは、順調というよりは今年度がたまたまうまくいっていると捉えた方がいいということか。

(西田コーディネーター) 私はそう感じる。

(加藤コーディネーター) どこまでをあらかじめ大人が設計した授業にするかという部分がポイントではないか。今年度は初年度のため、来年度に向けて自由度の度合いは検討できればと思う。

(清野義昭様) 地域みらい留学のオンライン説明会の参加数が少ないと感じた。その点も含めた中学生の動きに関して感じていることを教えていただきたい。

(西田コーディネーター) 参加校が毎年増えている。今年から中学生が闇雲にオンライン説明会へ参加するという動きが少なくなったため、高校の情報をよく調べ、地理的に行きやすい場所として選ばれている面もある。そのため地域みらい留学のページの内容を充実させたり、ホームページを魅力にしたり、SNSでの発信を充実させるなどのウェブでの施策が必要だと考えている。目的や熱意を持った中学生に来てもらうには、ワークショップや一泊二日のようなプログラムにしていくというのも今後の課題だと考えている。

(4) 熟議

テーマ「生徒と地域双方にとって学びと楽しみの多い学校行事とは」

(5) 指導・助言（出口教授）

- 年1回、中高合同会議を開き、めざす子ども像を共有するとよい。その際は熟議も必要である。
- CSは、いじめ、不登校、モンスターペアレンツなどで3割くらい成果が出ているので、これらをぜひ議題とすること。都合の悪いことは言わないということがないように。
- 子どもが主体性を持ってないことを熟議のテーマとするとよい。（北海道当別高校のCSを参照）

(6) 閉会（猪俣副会長）